

## 令和元年度の重点目標

- 1 諸活動を奨励し健康な心を身につけさせ、主体的に学び合う活力ある生徒を育成するとともに、本校の特色化を推進する。
- 2 全職員の共通理解のもと職員間の連携と協力を深め、学力の向上と進路意識の早期確立を目指し、生徒の自己実現を図る。
- 3 自覚ある生活態度の確立と地域社会との連携を更に推進し、社会性、寛容性を培う。

### 1 教務部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 学習指導要領に基づく教育課程を確実に運用し、新しい大学入試に対応する力を養成する。	(1)各学年の教育課程の実施状況を検証し、問題点を明確にする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入試改革が先行している。不透明な状況下、できる限りの授業改善・進路情報収集など、学校として取り組んでいる。</li> <li>・問題点に対する対策が、十分になされなかった。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度は、情報収集に努め、教育課程検討委員会を中心に、新カリキュラムを作成する。</li> </ul>
2 平成32年度入試を確実に実施する。	(1)一日体験学習、中学校訪問で、本校の魅力を広報し、志願者が増加するように努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの中学校も本校に対しては好意的に思っている。そんな中で志願倍率が下がっていることの原因究明が、喫緊の課題である。</li> <li>・一日体験での生徒による案内等、好印象であると思う。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校訪問の時期や回数の検討が必要だと思う。</li> <li>・本校へのニーズを整理する。</li> </ul>
	(2)特色選抜・一般選抜の実施方法を十分検討し、入試が円滑に実施できるように努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年通り、円滑な実施に向けての準備が進められている。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年の反省等も踏まえ、改善できることは改善し、ミスのないように全員で慎重に事にあたる。</li> </ul>
3 各係が、創意工夫を重ね、見直すべき点を見直し、確実に職務を遂行する。	(1)前年度の改善意見を参考にし、新しい視点で職務にあたる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の見直しを3回実施し、改善できることを明確にし、次年度に生かすことができた。</li> <li>・学期ごとの見直しは、考えるきっかけになってよかった。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革を進めるうえで、行事の精選は必要である。一方で、時間を制約してはならない場面もある。そのバランスを考え、できることから、小さなことから全職員で取り組むことが大切になってくる。</li> </ul>
	(2)係ごとの職務分析を明確にし、確実に職務を遂行する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各業務は、円滑に遂行された。</li> <li>・年度当初に、各係ごとに役割を明確にしておいたので、ほぼ予定通りに進める事ができた。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子データの他、紙の書類も整理し、次年度につなぐ。</li> </ul>

### 2 学習指導部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
------	-----	----	-------------------

1 生徒の学習意欲を喚起することで、基礎学力の定着・向上を図ると共に、より高い学力の習得を目指す。	(1) 「チャイム to チャイム」を徹底し、授業の工夫に努め、基礎・基本の定着を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の開始にやや遅れることがあった。</li> <li>・終了のチャイムが守られていないことがあった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイム前に授業の準備が完了しているように継続して指導していく。</li> <li>・授業終了時刻を厳守していく。</li> <li>・休み時間の過ごし方にメリハリをつけさせる。</li> </ul>
	(2) 学習ガイダンスや普段の指導を通し、高校生らしい学習習慣を定着させるよう努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ガイダンスについては充実していると思う。</li> <li>・課題の設定をしても提出状況が不完全である。</li> <li>・学習習慣の定着は個人差がある。</li> <li>・主体的に取り組んでいる生徒は少ない。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ意欲が湧くような指導をしていく。</li> <li>・教科をこえて、学校全体として対応を考える。</li> <li>・低学年のうちに学習習慣をつけさせていく。</li> </ul>
2 多様な生徒に対して、必要な学業支援ができる体制の確立を目指す。	(1) 様々な生徒が、それぞれ生き生きと学業に取り組み、学力の向上を図ることができるよう、諸制度を整備する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長欠の生徒が増えてきたが、ケースバイケースでの話し合い等ができていた。</li> <li>・別室登校に関してきめ細やかな指導が行われた。</li> <li>・定期テストの欠席者の追実施システムが整った。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習以前の心的な耐性、柔軟性をいかにつけるか、他部と方法・スタンスを検討する。</li> <li>・集団生活への適合を意識付けしていく。</li> </ul>
3 現職教育の充実を図る。	(1) 時代に合った指導法を各教科・各教員が研究できるよう、資料や研修の機会を提供するように努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な回数の研修設定ができなかった。係主導での研究設定・資料提供はあまり行えなかった。</li> <li>・現職教育で、講師を呼んだのは良かった。</li> <li>・PC（表計算）を使いこなせない教員がいる。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部からの案内などを職員にもっと周知・紹介していく。資料を印刷・配布する機会を増やす。</li> <li>・PC研修を検討していく。</li> </ul>

### 3 特別活動部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒の自主的・実践的活動を促し、生徒会の活性化を図る。	(1) 各種行事の内容を更に検討し、より充実したものにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校祭、体育大会ともに、前年度の反省を改善しながら、生徒が主体的に活動できた。</li> <li>・体育大会の実施場所等、検討できた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育大会については、今年度から本校で実施することになり、新たに出てきた反省を次年度は更に検討したい。</li> </ul>
	(2) 各種委員会・部活動と生徒会役員の連携を強める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉委員会と音楽部、体育委員会と運動部など、各行事で各種委員会、部活動、生徒会役員が連携を取り、協力し合えた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も様々な面で生徒会と各種委員会、部活動の連携を取って活性化を図っていく。</li> </ul>
2 HR 活動における生徒の自主性を育成し、望ましい人間関係の形成を図る。	(1) 各種委員会の自主的活動を支援する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉委員会や図書委員会、保健委員会など各種委員会でよく活動していた。</li> <li>・出版委員会は、生徒に原稿依頼をさせることで、生徒間で協力し合って仕事をさせることができた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会によって活動に差がでてしまう場合もあり、仕事量の偏りが無いのか検討していく。</li> </ul>

	(2) 各種行事に向けたクラスの準備時間を充実させるために、使用施設や日程を検討し、生徒による活動を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紫陽祭の準備が慌ただしいのではないかと思います。もう少し時間があれば余裕をもって準備できると思う。</li> <li>・体育大会前は多くの生徒が自主的に、グラウンドや体育館を利用し、練習に励んだ。</li> <li>・クラス裁量で使用できるLHRの時間が少なかった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究等で時間は限られているが、クラス裁量、学年裁量の時間を確保できるよう検討していく。</li> </ul>
3 部活動を活性化させる。	(1) 施設・設備の充実を図り、部活動の活性化に繋げる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一体育館に続き、武道場も改修工事に入り、施設の改善が進んでいる。</li> <li>・部活動によっては、施設・設備が不十分なところがある。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不十分な施設やグラウンドの整備などについて、改善を要望していく。</li> </ul>
	(2) ホームページ等を通じて、広報活動を積極的に行い地域間の連携を図る。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の部活動しか更新されていない。</li> <li>・生徒会関係の情報をほとんど発信できなかった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部がホームページの更新を行うよう努める。</li> <li>・行事ごとに忘れず更新する。</li> </ul>

#### 4 生徒指導部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 統一された指導体制のもと、全職員が互いに協力、連携して指導する。	(1) 学年間、職員間で共通理解を図りながら、容儀指導を中心に生活態度の確立を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年ばらつきなく共通認識で指導できた。</li> <li>・学年の指導の際に、担当する先生によって基準が異なっていて、混乱した面が見られた。</li> <li>・4月始業式の午後に各学年の容儀指導担当者打合せを実施して、指導面の共通理解を図っていく。</li> </ul>
	(2) 全職員で朝の立哨指導等を通し、日頃から生徒の様子を観察して生活指導にあたる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他学年の生徒の様子が観察できて良かった。</li> <li>・朝の登校での観察は良くできるが、日頃の生徒の観察は十分とはいえなかった。</li> <li>・容儀指導担当者打合せにて、目的を明確にして年度初めに全職員に対して共通理解を図る。</li> <li>・朝の立哨指導日の回数を減らす検討をする。</li> </ul>
2 教育相談を効果的に生徒支援に活用していく。	(1) 支援の必要な生徒の情報を各学年・各部と共有して、支援生徒の状況に応じながら学校生活の支援、改善を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部、生徒情報を共有できなかった面があったが、教育相談係と各部、各学年、各クラス担任との連携が図られ、生徒との接し方でたくさん助けられた。</li> <li>・教育相談担当、養護教諭、各学年、各担任との生徒の情報共有を日頃からさらに密にとり、個々の生徒の学校生活を支援していく。</li> </ul>
	(2) SCや外部関係機関との連携を図りながら、教育相談の校内支援体制を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度から、SC2人体制になり、生徒、保護者、教職員に対するきめ細やかな支援が図れた。</li> <li>・今後もSC2人体制で、きめ細やかな個々の生徒の悩み等の相談を行われるようにしていく。</li> </ul>
3 交通安全及び社会規範に対する意識の向上を図る。	(1) 自転車安全点検の実施、交通街頭指導および交通安全講話などを通して、交通ルール		<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故報告件数は例年より多くはないが、大きな怪我につながる交通事故が生じた。</li> <li>・交通ルール遵守の意識を高める場が少なかった。</li> </ul>

	の意識の高揚を図り、交通事故被害件数を少なくする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自らが考え、判断することを意識づける指導をしていく必要がある。</li> </ul>
	(2)いじめアンケートの実施、情報モラル講話や薬物乱用防止講話など各講演会の企画運営を行い、生徒の社会規範に対する意識の向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は各学期ごとにアンケートを実施した。いじめではない事案においても、学年、担任、生徒指導部で素早い対応ができた。</li> <li>各講演会の企画運営を適時行い、生徒の社会規範に対する意識の向上を今後も図っていく。</li> </ul>

## 5 進路指導部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒の実態と適性を把握し、学問や職業に関する生徒の視野を広げて進路志望の選択肢を増やすことで、進路意識を高める。	(1)進路希望調査、進路適性検査、進路探究ノートの活用や、進路講演会、大学見学、翔南一日大学、合格体験発表会等の実施、面談の充実により、キャリア形成をする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各行事は円滑に実施された。</li> <li>データインズ学部など、新しい文理融合の学部が出来てきている。学校として、研究が必要。</li> <li>生徒自身に新しい学部、学科を調査させる。</li> </ul>
2 入試方式の理解を深め、自己実現に必要な要件を確認させ、到達目標を設定させる。	(1)3学年進路検討会(7・12月)、国公立大二次出願検討会(1月)、2学年進路対策会議(2月)、3学年新旧担任報告会(3月)を充実させるとともに、各種の進路資料を分析・検討して提供し、志望校決定のための適切な助言をする	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通テストに向けて、新たな対策が必要ではないか。問題の難化が予想されるので、推薦AOの受験者を増やしたい。</li> <li>検討会の実施方法の改善。</li> <li>新入試に関する情報を積極的に集める。</li> <li>検討会はインターネットだけでなく、参考書籍を有効に使う。</li> </ul>
3 志望進路の実現に必要な総合的な学力を養成する。	(1)大学入試センター試験や進路目標校の入試問題等を分析し、校内模試・実力テストの作問・結果分析を充実させ、授業改善や生徒の学習指導に資する。(特に大学入学共通テストに関する情報の収集)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科で充実した分析等が出来た。</li> <li>共通テストに向けて、テストの作問等に工夫が今以上に必要である。</li> <li>30年ぶりの入試改革であり、本校としても今までの方法でよいところと、新しい方法が必要であるところを検討し、変化に対応していく。</li> </ul>
4 保護者や地域社会への広報活動に努め、進路指導に関する理解と協力を得る。	(1)面談の他、PTA総会、学年部会、支部会等において進路情報を適切に伝える。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>支部会の参加者が少ない支部もあり、保護者によって情報量に差が出てしまう。</li> <li>支部会への参加を促す。</li> </ul>
5 高大接続改革に関する情報を収集し、3年間の体系的な進路指導体制を構築する。	(1)調査書、活動報告書等の作成や、大学入試の出題傾向等に関する情報を収集し、周知・活用する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年の調査書については、文科省がまだ変更点を発表していない。</li> <li>早めに対応できることから動いていく。</li> </ul>

## 6 健康指導部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒自身が心と身体の内面からの健康管理ができるように指導す	(1)生徒が、日頃から自分自身の健康について関心を持ち、主体的に健康管理ができ	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健室からの情報がやや少ない。</li> <li>個々の生徒に関わる事が少ない。</li> <li>生徒が保健室に足を運びやすい環境にしてほしい。</li> </ul>

る。	るようアドバイスや情報提供をする。		保健室便り等でもっと情報を提供し、助言できるように心がける。
	(2) 保健室を頻りに利用する生徒に対して、担任や関係諸係との連携を密接にして、問題等を未然に防ぐようにする。	B	担任に対しての連絡は、こまめにできるようになってきたが、関係する職員への連絡等が少し足りないように感じる。 保健室が、良い意味で生徒のストレスを吐き出せるような環境整備を心がける。 担任、体育科との連携を密にする。
2 安全な学校環境を整備する。	(1) 災害時等の緊急事態発生時の教職員への周知を徹底し、事後の対応を確立する。	B	色々な事態が発生したが、それぞれの先生方で瞬時に対応できた。 次年度もOne・Teamで頑張る。
	(2) 救急患者等の対応方法を明確にするため、生徒及び教職員対象にAED講習会を開催する。	A	生徒については、予定通り開催できた。 職員に対しての講習会は、新任の職員を対象に予定を立てて実施するように次年度計画したい。
	(3) 安全点検を年間3回以上実施し、危険箇所の詳細を把握し、早期改善に努める。	B	安全点検において、危険箇所等の記載があった部分の事後報告がなかった。 事務と連携を取りながら、対応の有無までを各担当者に報告する。
3 学校環境の美化活動を推進する。	(1) 清掃分担区や監督割の工夫を図る。	B	現状の分担区・教員数では色々難しい面があると考えられる。 例えば、外掃除は月に1回全員で清掃を行う等、工夫することを考える。
	(2) 清掃分担区において目標等を定めるなどして、積極的に取り組むように指導を継続して行う。	B	日頃の清掃指導がまだ不十分である。 開始・終了時間が曖昧である。指導者によってまちまちになっている。 放送部に協力してもらい、清掃時間の間は音楽を流す等の工夫をする。

## 7 国際理解部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 国際化の進展に対応できる広い視野と自己表現力を持った生徒を育成する。	(1) 異文化体験をした生徒による体験発表の一層の充実を目指し、その体験を多くの生徒が共有できるようにする。 (例) ・オー研報告会(4月) ・紫陽祭でのオーストラリア研修会展示発表実施 ・「帰国留学生報告会」実施(8月) ・生徒向け啓発資料 “MiniWorld”年数回発行 ・広報誌“Global Village”の発行	A	・オーストラリア語学研修(オー研)報告会などで、参加者の経験を共有する機会を多く持てた。 ・“MiniWorld”の内容が好評であった。 ・紫陽祭で、展示物やプロジェクターを用いてオー研等の様子を伝えることができた。 ・一日体験学習で、帰国留学生の発表が好評であった。 ・“Global Village”の執筆依頼をもう少し早く行えると良かった。  ・今後も継続して行う。 ・計画的に、余裕を持って準備を行う。
	(2) 実践的コミュニケーション能力・プレゼンテーション能		・英語部会の弁論大会参加者は5名いたが、国際理解部会の弁論大会に関しては希望者がいなか

	力を伸ばさせるため、弁論大会等への参加を奨励する。	B	<p>った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年英語部会の弁論大会には参加している。さらに国際理解部会のものにも参加するのは難しいのではないか。</li> </ul> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の方向性を検討する。</li> </ul>
2 国際交流活動の活性化を図る。	(1)「オーストラリア語学研修」の円滑な運営を図り、内容の一層の充実を目指す。また、担当者選定を慎重に行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前オリエンテーションや渡航説明会の内容は充実していたと思う。</li> <li>・来年度の担当業者の選定は、各社にプレゼンテーションを実施してもらい慎重に行った。</li> <li>・旅行業者の対応は、毎年少しずつ良くなってきていると思われる。</li> <li>・参加人数が31名と多く、また参加者の中には研修の意義をよく理解していない者も多少いた。</li> </ul> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加生徒の選考試験を行い、20名程度を上限とする。</li> </ul>
	(2)「国際交流会」の円滑な運営を図り、内容の一層の充実を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちは積極的に参加していた。</li> <li>・留学生の話の内容が良かった。</li> <li>・準備がやや慌ただしくなってしまった。</li> </ul> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に、余裕を持って準備を行う。</li> </ul>
	(3) 受入及び派遣留学生に対する指導をきめ細かく行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡ノートを用いて、受入留学生本人やホストファミリーとの連絡を密に行った。</li> <li>・必要に応じてAFSとも連絡を取り合い、受入留学生の指導を滞りなく行うことができた。</li> </ul> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続してきめ細かい指導を行う。</li> </ul>

## 8 渉外部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 保護者および同窓会員との連携協力を密にし、特色ある活動の有効な実施をはかる。	(1)ふれあい挨拶活動と学校美化活動について、現状に対応した効果的な実施を工夫する。保護者の参加者数向上を目指す学習環境の改善に寄与する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校美化活動は、校内清掃も取り入れ参加しやすくなったと思う。</li> <li>・ふれあい挨拶活動は参加数向上とはならなかったが、無理のない範囲で参加してもらえているようだ。</li> </ul> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校美化活動は、来年度も予備日をなくし、一日だけにする。</li> <li>・ふれあい挨拶活動は、特に新入生の保護者に対して周知を徹底する。</li> </ul>
	(2)同窓生の学校行事への積極的な参加を要請し、キャリア教育の観点から、生徒の意識向上を目指す。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生のキャリア教育、創立記念講演会等、多くの同窓生にお世話になり、有意義な行事となった。</li> <li>・同窓会に積極的に協力してもらっている。</li> </ul> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も協力をお願いしたい。</li> </ul>
2 各行事への保護者の積極的な参加を促す。	(1)PTA 行事(総会・研修旅行)の実施内容を検討し、保護者の参加者数向上を目指す。HP を併用するなどして広報の工夫をする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修旅行の参加者が少なかった。</li> <li>・内容は有意義と思われるが、例年と同じで目新しさが感じられていないようだ。</li> </ul> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報の仕方を工夫する。早めに計画し、1学期末のPTA会報と同時にプリントで知らせる。</li> <li>・企画の刷新を検討する。</li> </ul>
	(2)学校行事(学校祭・持久走大会)の協力活動について、現		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域清掃活動となったが、例年通り豚汁作りはできた。今年度は初めて鍋を廊下に設置シクラ</li> </ul>

	状に合った改善をして、内容の充実をはかる。	A	<p>スごとに配布をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T Aからは十分な協力を得られている。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 豚汁をクラスごとに配布したため、 P T A役員からは、直に手渡す「ふれあい」を求める声があった。</li> </ul>
3 PTA 会計の適切な運用を検討する。	(1) PTA 諸会費、特に空調施設維持管理費の適切な運用を検討し、次年度の計画を立案する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、計画案を立案中である。</li> <li>・ 現状への適切な検討がなされ、会計の運用について改善を図っている。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後もより適切な運用を求めて検討を続けたい。</li> </ul>

## 9 1 学年

評価基準 A : 達成できた B : おおむね達成できた C : あまり達成できなかった D : 達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 基本的な生活習慣を確立させる。	(1) 教職員の共通理解のもと、服装頭髪指導を計画的に実施し、生徒がきちんと制服を着用できるようにさせる。	A	<p>職員の共通理解のもと、容儀指導を実施したため、服装の乱れはあまりみられなかった。ただ、女子のソックスが校則よりも短かった。</p> <p>実施方法等改善の余地はあった。</p> <p>校則に則った制服の着用ができるように、粘り強く指導する。</p>
	(2) 特別活動（部活動や学外での活動など）への積極的な参加を奨励し、生徒の学校生活の充実を図る。	B	<p>部活動の加入率は高かったが、すぐに辞めたり、転部する生徒がみられ、責任を持ってない生徒もみられた。</p> <p>年度当初に部活動に限らず、様々な行動に対して責任を持つよう組織的に指導する。とくに団体行動をする際の自己の責任を認識させる。</p>
2 主体的な学習習慣を習得させ、基礎力の向上を図る。	(1) 学習記録表を活用し、生徒の主体的な家庭学習時間：3時間以上（学年＋2時間）の確保を目指す。	B	<p>学習記録表は活用できたが、3時間以上の家庭学習時間を確保することは難しかった。また、生徒間の取り組みの差が大きかった。</p> <p>根気強く学習時間の必要性を指導し、自ら取り組めるような指導上の工夫をする。とくに6月以降の指導を大切に、起床時刻、学習開始時間、就寝時刻の3点固定を目指す。</p>
	(2) 種々のテストの結果を分析し、生徒各自の課題把握と改善に努めさせる。	A	<p>学年集会を効果的に行い、テストの分析を生徒に伝えることができた。ただ、テストが多く、すべてのテストに対し、同様にすることは難しく感じた。</p> <p>進研学力テストについては、そのつどLHR等で見直しをする時間が確保できるとよい。</p>
	(3) 基礎的課題研究に取り組みせ、主体的な学習への意識を高めさせる。	B	<p>計画的に実施でき、生徒は意欲的に取り組んでいたが、設備面が不十分であり、改善が待たれる。</p> <p>各学年の実施時間をずらし、パソコン室を活用できるようにする。</p>
3 一人ひとりの志望と適性を生かした進路指導を進める。	(1) 適性検査、面談、オープンキャンパス等を通して個々の適性を把握し、生徒の進路意識を高め、適切な類型選択ができるようにする。	A	<p>生徒の状況を勘案しながら、文理選択の指導を行うことができた。生徒は積極的にオープンキャンパスに参加し、自らの進路選択に活かそうとしていた。</p> <p>生徒が適切な進路選択ができるよう、学年間の教員で情報交換を密にし、生徒自身がより進路意識を高めることができるようにする。</p>

	(2) 校外模試の実施、小論文や英検の指導を通して、進路実現に向けた基礎学力の養成を図る。	B	校外模試の事前指導を行う時間があまりとれなかった。GTECへの取り組みはできたが、英検の指導に関しては受験者数も少なく、十分な指導ができなかった。 ----- HR等を通して、事前指導を実施する時間を確保する。英語の外部試験の意義について、粘り強く指導する。
--	---	---	---

## 10 2学年

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 基本的な生活習慣を確立させる。	(1) 教職員の共通理解のもと、服装容儀指導を計画的に実施し、生徒が自主的に制服をきちんと着用できるようにさせる。	B	学年の教職員の共通理解のもと、計画的に実施することができた。 ----- 来年度も継続して指導する。
	(2) 学校行事や部活動等の特別活動を継続して奨励し、充実した高校生活を送らせる。	B	学校祭や体育大会等に積極的に参加させた。 ----- 来年度も継続して指導する。
2 主体的な学習習慣を身につけさせ、学力の向上を図る。	(1) 学習記録表を活用し、生徒の家庭学習時間4時間以上(学年+2)を奨励し、予習・復習の習慣を確立させる。	C	学習指導部のアンケート等の結果を見ると、平日や休日の学習時間が3時間を超える生徒の数が少ない。 ----- 来年度は学年+2時間を目指す。休日は二ケタを目指す。
	(2) 種々のテストの結果を分析し、生徒各自の課題把握と改善に努めさせ、学力の向上を図らせる。	B	学年集会等を活用して、学年主任の話や、国数英の教科から現在の生徒の課題や学習方法に関する助言をした。 ----- 来年度も継続して指導する。
	(3) 課題研究に継続して主体的に取り組ませ、探究学習への意欲を高めさせる。	B	1年次からの継続となったが、計画的に指導した。 ----- 来年度も継続して指導する。
3 一人一人の志望・適性に応じた進路指導を進める。	(1) 進路指導的行事・LHR・総合的な学習時間の指導や面談などを通して進路意識を高め、具体的な進路選択が出来るようにさせる。	B	学年集会や生徒面談を通して、生徒の進路意識を高めた。 ----- 来年度も継続して指導する。
	(2) 校外模試の実施、小論文や英検やGTEC等の指導を通して、早期の進路意識の向上を図る。	A	計画的に学年で様々な種類の模擬試験を実施し、生徒の進路意識を向上させた。 ----- 来年度も継続して指導する。

## 11 3学年

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 自覚ある生活態度と校則遵守の徹底を図る。	(1) 頭髪・服装等の容儀規程を守らせることで基本的な生活習慣を身につけさせ、端然	B	・全体的に落ち着いて生活している。 ・出来る、出来ない生徒がはっきり分かれた。 ・連絡を取り合いながら、連携して指導できた。

	とした態度で学校生活を送らせる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携して統一規準に基づく指導を継続する。</li> <li>・個別指導を丁寧に行う。</li> </ul>
	(2) 学習環境を整えるため、清掃を徹底させて、常に教室内の美化に努めさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度より改善したが、試験後ロッカー上の教科書等が片付いていないことがあった</li> <li>・声掛けによる意識付けを徹底する。</li> </ul>
2 進路目標の実現のため、適切な学習習慣を確立・持続させる。	(1) 授業を中心とした学習習慣を確立し学習時間を確保することで、受験態勢を確立させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の指導の結果、家庭学習時間が増加した。</li> <li>・学習習慣がなかなか確立しない者もいた。</li> <li>・1年次から学習（生活）習慣指導を粘り強く行う。</li> </ul>
	(2) 校内・外部模試の分析を通して自己の学習達成度を的確に把握させ、進路実現を意識した学力向上を図らせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模試を分析し生徒に提示する機会が少なかった。</li> <li>・目先の結果に左右されてしまう生徒もいた。</li> <li>・教科による模試の分析を学年で共有し、生徒に還元する機会を定期的に設ける。</li> </ul>
3 生徒の志望・適性に応じた進路指導を行い、進路希望の実現を図る。	(1) 生徒の進路希望を正確に把握し、機に応じた面談を実施することで、生徒の潜在能力を視野に入れた助言を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正副担任、教科担任が連携して指導を実施した。</li> <li>・個別対応で、悩みのある生徒に面談を実施した。</li> <li>・職員が連携・情報共有して一貫した指導を行う。</li> <li>・生徒の話を良く聞いて悩みの軽減化を図る。</li> </ul>
	(2) 進路指導部と協力して生徒の進路研究を充実させる。また、生徒の進路選択に十分な資料を提供する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒主体で進路研究を進めさせることが出来た。</li> <li>・おおむね適切な進路選択ができています。</li> <li>・情報を収集し、変革に対応した指導を行う。</li> </ul>

## 12 国語科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒が効果的な学習法を確立できるように指導する。	(1) 効果的に学習を行えるよう、適宜学習法に関するガイダンスを行い、必要に応じて個別に指導を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の学習ガイダンスは古典学習の導入として有効だった。また、各試験の答案返却時など、意識の高まる時機を逃さず学習法を点検させた。</li> <li>・生徒一人ひとりに自分に合った学習法を求め試させるとともに、その継続と成果の自己点検・評価ができるように指導していく。</li> </ul>
	(2) 課題により学習の習慣化を図り、自主的な学習につながる指導を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が前向きに取り組めており、課題指示は学習の習慣化に奏効した。+αの学習に取り組む自主性を持った生徒はまだ多くない。</li> <li>・まだ習慣化できない生徒には、課題指示を通して継続的に指導する。上位を目指させたい生徒には、向上心を刺激する働きかけを工夫する。</li> </ul>
2 基礎学力の定着および記述力の向上を図る。	(1) 小テストを活用して漢字・語句（現代文）や文法・句法（古典）などを継続的に学習する機会を設け、基礎学力の定着を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業進度との兼ね合いで、小テストは適宜の実施になったが、生徒を基礎・基本事項の定着に向けた学習に向かわせる指導を工夫できた。</li> <li>・漢字語句、古典文法や句形、古文単語など、時期・学習進度に応じた小テストを計画的に実施し、基礎学力充実の必要性を理解・納得させる。</li> </ul>
	(2) 思考力を鍛え、長文の記述に対応できる力の向上を意識した授業展開と作問を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験では解答字数の多寡、難易をさまざまに設定しながら、記述設問を意識的に発問した。週末課題や課外授業でも前向きに取り組ませた。</li> </ul>

			・年間の学習指導計画立案の際に、記述課題の設定（単文で答える～文章にまとめる）を考慮した教材（単元）選定を心掛ける。
--	--	--	--

### 1 3 地歴・公民科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 地歴・公民科の教員が一体となって指導に当たることで、生徒の学習意欲の喚起と学習習慣の定着を図る。	(1) 新たに開講される文化探究の授業のあり方を確立するとともに、各科目においても探究活動の充実に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開講初年度であったが、担当者が創意工夫をこらし、実施することができた。</li> <li>・探究活動で用いる資料が不足し、十分な活動ができない場面が見られた。</li> <li>・今年度のノウハウを次年度以降に継承していく。</li> <li>・図書の購入の機会などを利用して、資料を充実させていく。</li> </ul>
	(2) 教科会を活用して生徒の情報交換に努め、生徒の学習意欲の喚起や学習習慣の定着を図る指導法を共有する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて教科会を開催して情報交換をすることで、自分の担当していない学年や科目の状況を把握し、教科担当者全員で共有することができた。</li> <li>・次年度以降も継続していく。</li> </ul>
2 生徒の基礎学力の向上を図るとともに、大学入試に対応する学力を身につけさせる。	(1) 来るべき新たな大学入試に対応するため、定期試験や校内模試において、思考力や判断力を問う問題をどのように出題すべきかを模索する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作問の段階で素材を探そうとしたら、思いのほか時間がかかってしまい、思考力や判断力を問う問題を作成することはできたが、量を確保することが難しかった。</li> <li>・日頃から作問のための素材集めを行い、教科で共有できるようにする。</li> <li>・出版社が発行する教材を比較するなど、情報の収集に努める。</li> </ul>
	(2) 基本的事項の確実な定着を図るため、小テストを計画的に実施し、成績不振者に対しては教科面談等を実施する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね小テストを実施することができたが、授業の進度に追われてしまい、計画通りにいかない部分もあった。</li> <li>・不振者に対する指導を、担当者間で連携して行うことができた。</li> <li>・授業の進め方を工夫する。</li> <li>・不振者に対する指導は、次年度以降も継続していく。</li> </ul>

### 1 4 数学科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 家庭学習の習慣化を促し、基礎学力の向上と、考える力を身につけさせる	(1) 予習・授業・復習といった学習のサイクルの習慣化を促し、週末課題の提出を徹底させ、主体的に学習できるように導く。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に取り組む生徒と、そうでない生徒の二極化が見られた。</li> <li>・主体的に取り組ませるといふ部分ではさらなる努力が必要である。</li> <li>・提出率の低い生徒には、教科面談等を実施し、学習の習慣化を促す。</li> <li>・課題の提示の仕方、学習ペースの指示など具体的な指導を実施していく。</li> </ul>
	(2) 必要な場面・状況で習熟度別授業を行い、個々の生徒に応じた教材を提供し、学力向上へとつなげる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で習熟度別授業を行うことができ、効果はあったが、下位クラスの授業での反応を読み取るのが困難であった。</li> <li>・今後も習熟度別授業を展開し、学力の向上につなげたい。</li> </ul>

			・粘り強く、生徒の状況を把握しながら指導に当たっていく。
2 生徒の学習意欲を高め、進路実現に向けた実践力を養う。	(1) 土曜課外・平常課外の時期と内容を検討し、多くの生徒が主体的に参加するよう、計画的に実施し、効果が上がるよう努力する。	A	・多くの生徒が課外に参加した。一方で途中で欠席が続く生徒も一定数見られた。 ----- ・取り組みませ方の工夫や粘り強い指導を心掛け、最後まで課外に参加させていく。
	(2) センター試験（数学）において得点率を全国平均に近づけられるよう、効果的な指導をする。	B	・センター試験対策は、演習を十分にとり取り組ませることが出来た。 ・センター対策後半は、従来と異なる教材を利用し、生徒に自信を付けさせることができた。 ----- ・今後もテキストの精選や、マークシート形式と記述形式のバランスを考えて、指導していく。

## 15 理科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 科学的な興味関心を喚起するとともに、授業内容の充実を図る。	(1) 授業の中に実験や観察を取り入れながら、主体的かつ対話的で深い学びの実現を図る。	B	・各科目とも標準的な実験、観察を取り入れることができたが、学年によって、授業進度の影響で不十分な科目もあった。 ----- ・新教育課程に基づいた実験内容の精選、検討を行っていく。
	(2) 日常生活との関連をふまえながら、理科への興味関心を高めると同時に、新しい入試制度に対応できる授業の展開を行う。	A	・日常生活との関連をふまえながら、理科への興味関心を高める授業展開ができた。 ----- ・ここ数年、理系を選択する生徒が多く見られる。1年次から、より一層興味関心を高める授業展開を実施し、新しい入試制度に対応できる「自ら考える力」の育成に努めたい。
2 生徒の進路実現のために、積極的な支援を行う。	(1) 各学年、各クラス担任との連携を図りながら、理科系進学に関連する情報を提供していく。	B	・近年、2年生の理系希望者が増加傾向にある。1年生の授業内容から大学の授業の関連性を話題にあげて、理系の興味関心を高めることができた。 ----- ・各学年、各クラス、進路指導部との連携を密にとり、1年生の授業の中で、有益な情報を提供して2、3学年へとつなげる指導を展開していく。
	(2) 外部関係機関との連携を図りながら、宇都宮大学高大連携講座や翔南サイエンスツアーの企画運営を行い、生徒の進路選択の一助となるよう支援する。	A	・高大連携講座（GSC）の他に、翔南サイエンスツアーにおいて、物・化・生の3分野の企画運営を今年度初めて行った。理系研究分野への意識づけの一助になった。 ----- ・次年度も継続実施をしていく。

## 16 保健体育科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 健康・安全に対する意識の涵養と体力の向上を図る。	(1) 授業に向き合う姿勢を見直し、集団行動のマナーを身につけさせる。 ・集合時間の厳守	A	始業前には集合し、準備体操を行っていた。体育委員は授業連絡等よく行っていた。 ----- 体育委員の指示で自主的に準備体操ができるよう

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育委員の役割の徹底</li> </ul>		<p>になるとよい。</p> <p>毎時間筋力トレーニングなどの補強運動を行い、体力の向上ができた。</p>
	(2) 体力の向上を目指して、スポーツテストの結果を踏まえたトレーニング法を工夫する。また、体力の著しい低下を防ぐ工夫をする。	A	補強運動は単調な運動になりがちなので、生徒が楽しみながら行える工夫をしたい。
2 体育施設の管理を徹底し、有効的な活用を図る。	(1) 第一体育館のフロアーが新しく改修されたことに伴い、その使用に当たっては、上履きと体育館シューズの使い分けを徹底する。	A	体育館入り口で体育館シューズに履き替えることを徹底できた。
	(2) 新たな体育施設の管理を確かなものにするために、点検・施錠・清掃等、適切な取り扱いを徹底する。 ・長期休業中における清掃担当の割り振り ・施錠の徹底	B	授業日における体育館の管理はできていたが、長期休業中の清掃の割り振りなどが徹底できなかった。 長期休業中は清掃担当割り振り表などを作成し、責任の所在をより明確にできるとよい。

## 17 芸術科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 基礎的・基本的内容の充実を図りながら、生徒一人一人の興味・関心を深め、芸術活動を充実させる。	(1) 指導内容を精選し、表現活動の質を高められるような授業の実践に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材をよく吟味した。</li> <li>・日頃より教材研究に努めた。</li> <li>・今後も継続して教材研究に努め、質の高い授業を展開できるようにする。</li> </ul>
	(2) 表現活動及び鑑賞活動の相互の関連を図り、創造的な学習をより活発に行うことができるよう努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞から表現の流れを徹底した。</li> <li>・鑑賞による気づきを言語化することで表現に繋がった。</li> <li>・表現活動を優先する時間配分になってしまったため、相互の関連をあまり図ることができなかった。</li> <li>・生徒同士の作品を鑑賞する時間や、有名作家の作品を解説する時間を多く取る。</li> </ul>
2 芸術を愛する心情を育て、生涯学習の一環として豊かな情操と創造力を深める。	(1) 活動の喜びを得るとともに、生涯にわたって芸術に親しむ態度や習慣を身に付けるよう指導する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が「できた」と実感したり、表現を楽しめる活動をもっと増やしたい。</li> <li>・生涯の大半を占めると予想される、芸術鑑賞の良さや面白さについて、十分に指導できていなかった。</li> <li>・特に、一般的に理解しがたい作品について、対話を交えた鑑賞活動を行う。</li> </ul>
	(2) 音楽・美術・書道の歴史と変遷、日本の伝統芸術などへの関心や理解を深められるよう指導する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本での書の発展について重点的に説明した。</li> <li>・歌舞伎の鑑賞・篠笛の器楽演奏活動をとおして理解を深める予定である(2月に実施)。</li> <li>・今後も継続して伝統芸術への興味・関心を高められる授業展開に努め、指導方法を工夫する。</li> </ul>

## 18 英語科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 進学に向けた英語の基礎学力、応用力をつける。	(1) 生徒が、自学自習を習慣化できるように指導する。また、各学年段階での指導を工夫し基礎の定着から応用力へと結びつける。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の予習を徹底して指導した。</li> <li>・週末課題や小テストを活用して、学習の習慣化を図った。</li> <li>・自学自習の習慣化が難しい生徒がいる。</li> <li>・1年生のうちに、予習復習を習慣化させる。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の重要性を意識づけする。</li> <li>・取り組みの良くない生徒への指導方法を工夫する。</li> </ul>
	(2) 3 学年はセンター試験での全国平均点を目標とし、進路実現のための実践力を養う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 学期から筆記・リスニングともセンターの 10 分間演習の問題集に取り組みせ、問題の傾向と対策を指導した。</li> <li>・筆記、リスニングともセンター演習を多く行って解答力の伸長をはかった。</li> <li>・リスニングはほぼ平均点に達し、筆記も平均点との差は数点で僅差であった。</li> <li>・来年度から始まる共通テストについても、試行問題などを良く研究し、指導を工夫していく。</li> </ul>
2 英語のコミュニケーション能力を伸ばす。	(1) 生徒が授業中に、英語でコミュニケーションを行うように支援し、学習意欲を高める指導を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教員が現状の中で様々な工夫をして指導している。</li> <li>・1 年生の TT では、生徒が関心を持ちやすいテーマを選び、ペアやグループワークを中心とする授業を行った。</li> <li>・通常の授業でもスモールトークやペアワーク等の活動を多く取り入れる授業をした。</li> <li>・40 人というクラスサイズの中で、個別の生徒の Speaking の状況を把握するのは難しい。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Lesson の導入やまとめで、もっと会話や発話の活動を入れるなど、工夫を継続する。</li> <li>・生徒の発話に対する効果的な feedback の方法を考える。</li> </ul>
	(2) 指導科目、内容に応じて使用言語の適切な選択を行い、生徒、教員ともに、英語を発話する機会、量を増やす。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目ごとに、目的に合わせた言語を使用した。</li> <li>・英語の発話機会を多く設けるように心がけた。</li> <li>・各 Lesson 毎に学習プリントを準備し、英語を使用する授業を工夫した。</li> <li>・今後も英語で発話する量の向上に努める。</li> </ul>
3 資格試験、弁論大会などへの参加を奨励する。	(1) 大学入試新テストに向けて、適切な資格試験受験の準備、実施を計画的に行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2 学年で GTEC 公式受験を 2 回、滞りなく準備、実施できた。</li> <li>・実力テストの内容に新テストを意識した問題を取り入れた。</li> <li>・急な外部試験利用の中止があり、戸惑った。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の動向を見ながら対策を検討する。</li> </ul>
	(2) 学年行事としての英語スピーチ大会、プレゼン大会の内容的向上をはかる。また校外行事参加者の指導を充実させる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 年生のスピーチ・コンテストについては、事前準備を全員に課題として行わせ、添削し指導した。ほとんどの生徒が積極的にしっかり取り組んでいた。</li> <li>・県の英語弁論大会では、5 名の参加者は良く準備し、意欲的に取り組んでいた。</li> <li>・2 年生のプレゼンテーションでも、生徒は良く調査し、パワーポイントの準備をしていた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も授業や夏休みを利用して計画的に準備させ、内容の向上を目指した指導をする。</li> </ul>

## 19 家庭科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活の充実向上を図る能力を育	(1) 指導内容の精選を行い、生活活動に関わる事柄について関心を持ち、知識・技術の定着を図れるようわかりやすい授	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なテーマを題材にすることで、生活に関わる事柄について興味関心を持ち、知識を高めることができた。技術面においては個人差はあるものの定着してきており、自ら活動できるよう</li> </ul>

む。	業を展開する。		<p>になってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2単位の授業の中で効率よく授業展開ができるよう、更に授業内容を検討する。</li> </ul>
	(2) 自立した消費者を目指し、消費者教育の一層の充実を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まもなく成人になることを自覚し、契約の重要性、消費者保護の仕組みについて概ね理解できたが、題材設定や授業展開に工夫が必要である。</li> <li>・次年度は実際の消費活動を題材にしながら、更に授業の改善を図る。</li> </ul>
2 実践的・体験的学習を通し、生活事象を科学的に考える力を高めると共に、安全・衛生面での意識を高揚させる。	(1) 思考力・実践力を高めるため、実験・実習を効率よくり入れる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・実習等の体験的な学習を通し、思考力や実践力を高めることができた。</li> <li>・実験・実習を通して論理的に考察できるように更に教材の工夫や指導法の工夫を図る。</li> </ul>
	(2) 事前準備から事後指導を的確に行い、注意事項の周知徹底を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前準備に時間をかけ、実験・実習を円滑にできるように心がけた。しかしながら注意事項を徹底させるには課題が残った。</li> <li>・全体指導と個別指導を繰り返し行うことで、衛生面・安全面を徹底させる。</li> </ul>

## 20 情報科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒の興味関心を高め、情報活用の実践力を高める。	(1) 文書処理ソフトを活用しながら、情報機器の基本的な使い方や情報機器を利用するときの注意点を理解させ、実践力を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に Word を利用して文書作成を行い、ほとんどの生徒が必要とされる力を身に付けた。</li> <li>・個々の生徒のスキルに応じた指導をしていきたい。</li> </ul>
	(2) 実技の時間を増やし、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを使い、情報を収集・処理・表現し、受け手に発信ができるような力を養う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期は Excel、3学期は power point を用いて実技の演習を行った。表計算をおおむね理解でき、情報を発信する力を養えた。</li> <li>・苦手な生徒へはもう少し細かな指導をしていきたい。</li> </ul>
2 情報社会に参画する態度を養う。	(1) 情報化が社会に及ぼす影響と課題、および個人の責任について理解させ、情報社会の一員としての能力と態度を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、DVD を用いて SNS 等で起こるトラブルについて考えさせることができた。</li> <li>・今後も DVD を用い、年度の早い段階で情報モラル教育を行って行く。</li> </ul>